

新卒大学生の就職先選定要因の変化

1250474 武市晃幸

指導教員 上村浩

研究背景

新卒労働市場における人材不足が進む中、現代の若者の仕事に対する価値観は変化しており、「安定」や「貢献」が重視される傾向にある。企業が効果的な採用活動を行うためには、若者の価値観や志向性を理解することが不可欠である。しかし、大学生活を通じて就職先選定の基準がどのように変化し、その要因が何であるのかを明らかにした研究は皆無に等しい。

研究目的

本研究は、学生の就職先選定要因の変化すなわち、大学生活の中で就職先（仕事）に求める重要な価値観が、学生生活を通じてどのように、またなぜ変化するのかを明らかにすることを目的とした。

研究方法

1～4 年生の大学生を対象にアンケート調査を実施し、進路決定前後での価値観の変化を分析した。就職先選定における金銭・非金銭的要因を含む項目について、10 点スケールでその重要度を得点化した。

分析結果

「給与・福利厚生などその他の制度や待遇」「企業の安定性・将来性」「挑戦できる環境」「興味のある業界」の項目について、就職活動前よりも就職活動中または進路決定後の方が平均得点が高い傾向が見られた。

考察・結論

「給与・福利厚生」や「企業の安定性・将来性」の重要性は年次が上がるにつれ高まることが明らかとなった。物価高騰や経済不安の影響に加え、企業に関する知識の充実が、より現実的・保守的な選択基準への変化を促していると考えられる。一方で、「挑戦できる環境」や「興味のある業界」を重視する学生も一定数存在し、自己の成長や成功を求める「リスクテイク」者としての姿勢が、進路選択に影響を与えている可能性が示唆された。特に、学生生活を通じて自己の適性や関心を明確にし、将来的なキャリアビジョンを具体化する中で、あえてリスクを取ってでも挑戦したいという意識が芽生えることが、その背景にあると考えられる。